

A-10 笛吹川・東沢・釜ノ沢 甲武信ヶ岳 (2475m)

【山行日】 2021年7月31日～8月2日

【CL】 2641 【参加者】 3096 3236 3291 3325 3426 3446 3540 3615

【コース】 8月1日西沢溪谷駐車場 5:20…5:50 東沢出合…7:00 法螺貝のゴルジュ…8:50 乙女の滝…12:00 魚留滝…12:10 千畳のナメ…13:20 両門滝…14:30 テン場 (泊) 8月2日テン場 6:20…8:56 木賊沢出合…11:10 ポンプ小屋…11:50 甲武信小屋…12:35 甲武信ヶ岳…13:25 戸渡尾根…15:15 徳ちゃん新道…17:20 登山口…17:50 西沢溪谷駐車場

「決行」

連日続く不安定な天気が僕たちメンバーを憂鬱にさせていた。

出発2日前に届いたメール

“笛吹川決行します”

…この数日間、何十回天気予報と睨めっこしてきたのであろうか…

その短い文章のメールにはCLとしての苦渋の決断が慮られていた。

「ルーツ」

日本登山の原点とも言うべき “沢登り” は

この笛吹川東沢釜ノ沢遡行から始まったと言われている。

登山道を踏み越え、自然との深い部分に最も交じり合える登山スタイル。

沢登りのルーツであり笛吹川の生涯を辿る山旅

沢やならば一度は訪れておきたいクラシックルート。

「笛吹川を遡る」

瑠璃色の釜、深く荒ぶるホラの貝ゴルジュ、勇壮な両門ノ滝、

ツルツルドボン！スラブ、絶景千畳のナメ

ここには沢の魅力と厳しさがギッシリと詰まっている。

単調なゴーロ帯では思い思いのルートを切り開き、遊ぶ

わざわざ流心を突き進み、ボルダーのごとく岩をへつり、飛び込み泳ぐ。

そしてその日の締めくくりは、野営地での焚き火

酒とバカ話。

満天の星空の下、途切れぬ沢のせせらぎの中で眠る夜。

翌日は百名山、甲武信ヶ岳山頂まで一気に駆け上がり、

標高差 1200mを越える遡行は終結する。

これぞ沢登り！

これが楽しくないわけが無いではありませんか！（3236）

